

# 高校「新学習指導要領」は教え方改革 2022年から社会などに“探究科目”が登場！

旺文社 教育情報センター 2018年5月

2022年から年次進行で実施される高校の新しい学習指導要領が公示された。「主体的・対話的で深い学び」の実現、そのための授業改善、さらにカリキュラム・マネジメントの確立等々、様々な改革が高大接続改革の流れの中で実施される。教科・科目の構成も改善し、国語・社会・外国語などでは新たな教科が登場する。ここでは新教科・科目のポイントを中心に紹介する。

## ●教科・科目の教育内容の主な改善事項など

新設・再編されるのは、国語科における科目の再編（「現代の国語」「言語文化」「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」）、地理歴史科における「歴史総合」「地理総合」の新設、公民科における「公共」の新設、共通教科「理数」の新設などである。

改善の柱として挙げられているのは、言語能力の確実な育成、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、外国語教育の充実、職業教育の充実など。

【教科に関連した特徴的なポイント】 \* < >内は、主に含まれる教科を示す。

### ○主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実

- ・政治参加と公正な世論の形成、政党政治や選挙、主権者としての政治参加の在り方についての考察<公民>
- ・財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、職業選択、起業、雇用と労働問題、仕事と生活の調和と労働保護立法、金融を通じた経済活動の活性化、国連における持続可能な開発のための取組<公民>
- ・多様な契約、消費者の権利と責任、消費者保護の仕組み<公民、家庭>
- ・世界の自然災害や防災対策<地理歴史>、防災と安全・安心な社会の実現<公民>、安全・防災や環境に配慮した住生活の工夫<家庭>
- ・我が国の領土等国土に関する指導の充実<地理歴史、公民>

### ○情報教育（プログラミング教育を含む）

- ・情報科の科目を再編し、全ての生徒が履修する「情報Ⅰ」を新設することにより、プログラミング、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベース（データ活用）の基礎等の内容を必修化、データサイエンスに関する内容を大幅に充実<情報>

\* 高校の各学科に共通する教科・科目・標準単位数等の「現行」・「改訂後」の一覧

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

※赤字が新設教科・科目。

〔改訂後〕

教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	○
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現	4	
	古典探究	4	
地理 歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	○
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共	2	○
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
保健 体育	体育	7~8	○
	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	
英語コミュニケーションⅡ		4	
英語コミュニケーションⅢ		4	
論理・表現Ⅰ		2	
論理・表現Ⅱ		2	
論理・表現Ⅲ		2	
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
情報	情報Ⅰ	2	○
	情報Ⅱ	2	
理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2~5	
	総合的な探究の時間	3~6	○2単位まで減可

〔現行〕

教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理 歴史	世界史A	2	○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
理科課題研究	1		
保健 体育	体育	7~8	○
	保健	2	○
芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	コミュニケーション英語基礎	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	
英語表現Ⅰ		2	
英語表現Ⅱ		4	
英語会話	2		
家庭	家庭基礎	2	○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	○
	情報の科学	2	
	総合的な学習の時間	3~6	○2単位まで減可

## ●教科・科目のポイント(新科目を中心として)

以下、文部科学省が公表した「新高等学校学習指導要領」および「学習指導要領の改訂のポイント」等から教科・科目の特徴的なポイントを紹介する。なお、主として専門学科において開設される各教科・科目は割愛している。

(赤字の教科・科目が改編・新設を示す。各教科中、■が科目。)

## ◀ 国語 ▶

### ■現代の国語[必履修科目]

- 実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する。
  - ・話し合いの仕方や結論の出し方を工夫し、結論を得たり多様な考えを引き出したりするための議論や討論をする。
  - ・論理的な文章や実用的な文章を読み、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら内容を解釈したり、推論を働かせて自分の考えを深めたりする。

### ■言語文化[必履修科目]

- 上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める。
  - ・我が国の言語文化に特徴的な語彙や表現の技法を用いて短歌や俳句をつくったり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで随筆などを書いたりする。
  - ・我が国の伝統や文化をテーマにした論説文や随筆、古典や古典を解説した文章、近代以降の文学的な文章などを読んで、ものの見方、感じ方、考え方を捉えて内容を解釈したり、我が国の言語文化について考えたりする。

### ■論理国語

- 実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視する。
  - ・批判的に読まれることを想定し、立場の異なる読み手を説得するために、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、論拠の吟味を重ねたりして、自分の主張を明確にしながら論述する。

### ■文学国語

- 深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視する。
  - ・文学や映画の作品、それらについての評論文を参考にするなどして、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮し、読み手を引き付ける文章になるよう工夫しながら、小説や詩歌を創作する。

## ■国語表現

- 実社会において必要となる、他者との多様な係わりの中で伝え合う力の育成を重視する。
  - ・相手の同意や共感が得られるよう、表現を工夫してスピーチをしたり、他者のスピーチを、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、自分の考えを深めたりする。
  - ・読み手の同意や共感が得られるよう、適切な根拠や具体例を効果的に用いたり、文章と図表や画像などを関係付けたりしながら、企画書や報告書などを作成する。

## ■古典探究

- 生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める。
  - ・古典としての古文及び漢文を読んで、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えたり、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら解釈を深めたりする。
  - ・関心をもった事柄について、関連する複数の古典の作品や資料などを読んで、自分のものの見方、感じ方、考え方や、我が国の言語文化についての自分の考えを深める。

## 《 地理歴史 》

- ・「日本の位置と領域」（地理総合）・「領土問題の現状や要因、解決に向けた取組」（地理探究）については、日本の領域をめぐる問題にも触れる。また、我が国の海洋国家としての特色と海洋の果たす役割を取り上げるとともに、竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題も取り上げるようにすること。その際、尖閣諸島については我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも扱う。
- ・「日本の国民国家の形成などの学習」（歴史総合）・「明治維新や国民国家の形成などの学習」（日本史探究）において、領土の画定などを取り扱うようにする。その際、北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れる。
- ・生徒が歴史を豊かに学べるよう、歴史上の用語を削減する規定は設けない。

## ■地理総合[必履修科目]

- 持続可能な社会づくりを目指し、地理的環境と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。

<内容>

A 地図や地理情報システム(GIS)で捉える現代世界／B 国際理解と国際協力／C 持続可能な地域づくりと私たち

## ■地理探究

- 現代世界の諸事象に関して、諸地域を系統的・地誌的に考察し、これからの日本の持続可能な国土像の在り方について探究する。

<内容>

A 現代世界の系統地理的考察／B 現代世界の地誌的考察／C 現代世界におけるこれからの日本の国土像

### ■歴史総合[必修科目]

- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・世界経済の安定に向けた取組を扱い、日本が先進国としての国際的な地位を確立してきたことに気付くようにするとともに、政府開発援助（ODA）や国際連合平和維持活動（PKO）、持続可能な開発のための取組などを扱い、日本が国際社会における重要な役割を担ってきたことにも気付くようにする。

<内容>

A 歴史の扉／B 近代化と私たち／C 国際秩序の変化や大衆化と私たち／D グローバル化と私たち

### ■日本史探究

- 我が国の歴史の展開について、世界の歴史や歴史を構成する様々な要素に着目して、総合的に広く深く探究する。
- ・我が国の歴史と文化について各時代の国際環境や地理的条件などに関連付け、世界の中の日本という視点から考察できるよう指導を工夫する。

<内容>

A 原始・古代の日本と東アジア／B 中世の日本と世界／C 近世の日本と世界／D 近現代の地域・日本と世界

### ■世界史探究

- 世界の歴史の大きな枠組みと展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて、広く探究する。
- ・欧米などの動向のみを取り上げることのないよう留意し、持続可能な社会の実現に向け、科学技術における知識の在り方について、人文科学や社会科学等の知識との学際的な連携が求められていることに気付くようにする。

<内容>

A 世界史へのまなざし／B 諸地域の歴史的特質の形成／C 諸地域の交流・再編／D 諸地域の結合・変容／E 地球世界の課題

## 《 公民 》

### ■公共[必履修科目]

- 現代社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成すること等について考察する。
- ・「政治参加と公正な世論の形成、地方自治」については、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の涵養に向けて、民主政治の推進における選挙の意義について指導する。「国家主権、領土（領海、領空を含む）」及び「我が国の安全保障と防衛」については、国際法と関連させて取り扱う。「国際貢献」については、国際連合における持続可能な開発のための取組についても扱う。

<内容>

A 公共の扉／B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち／C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

- \*情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導（メディア・リテラシーの育成）にも配慮する。

### ■倫理

- 他者と共に生きる主体を育むために、現代に生きる人間の倫理的課題について探究し、自立して思索する。
- ・古来の日本人の心情と考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりにして、自己の課題として学習し、国際社会に生きる日本人としての自覚を深めるよう指導する。その際、伝統的な芸術作品、茶道や華道などの芸道などを取り上げ、理解を深めることができるよう指導する。
  - ・「生命」については、生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにする。
  - ・「科学技術」については、近年の飛躍的な科学技術の進展を踏まえ、人工知能（AI）をはじめとした先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方についても思索できるよう指導する。

<内容>

A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方／B 現代の諸課題と倫理

### ■政治・経済

- 国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育むために、現実社会の諸課題を広く深く探究する。

<内容>

A 現代日本における政治・経済の諸課題／B グローバル化する国際社会の諸課題

## 《 数学 》

■数学Ⅰ〔必履修科目〕■数学Ⅱ■数学Ⅲ■数学A■数学B

■数学C<内容>

(1) ベクトル、(2) 平面上の曲線と複素数平面、(3) 数学的な表現の工夫

- ・ 図、表、統計グラフ、離散グラフ及び行列などを用いて、日常の事象や社会の事象などを数学的に表現し、考察する。
- ・ 「数学活用」は発展的廃止とするが、その内容を「数学A」、「数学B」、「数学C」に移行。

## 《 理科 》

■科学と人間生活■物理基礎■物理■化学基礎■化学■生物基礎■生物■地学基礎■地学

- ・ 各科目の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用する。
- ・ 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業などと関連していることにも触れる。
- \* 必履修は、「科学と人間生活」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」のうちから2科目（うち1科目は「科学と人間生活」とする。）又は「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「地学基礎」のうちから3科目。

## 《 外国語 》

■英語コミュニケーションⅠ〔必履修科目〕■英語コミュニケーションⅡ■英語コミュニケーションⅢ

○聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの5つの領域を総合的に育成。

■論理・表現Ⅰ■論理・表現Ⅱ■論理・表現Ⅲ

- 話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの3つの領域を中心とした発信力を強化。
- ・ 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をする。
  - ・ 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心を

より高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにする。

## 《 情報 》

- 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。
- 情報の信頼性や信憑性を見極めたり確保したりする能力の育成を図るとともに、知的財産や個人情報の保護と活用をはじめ、科学的な理解に基づく情報モラルの育成を図る。

### ■情報Ⅰ [必履修科目]

- 全ての生徒が、プログラミング、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベース（データの活用）の基礎等について学ぶ。

<内容>

(1) 情報社会の問題解決 / (2) コミュニケーションと情報デザイン / (3) コンピュータとプログラミング / (4) 情報通信ネットワークとデータの利用

### ■情報Ⅱ

<内容>

(1) 情報社会の進展と情報技術 / (2) コミュニケーションとコンテンツ / (3) 情報とデータサイエンス / (4) 情報システムとプログラミング / (5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

## 《 理数 》

### ■理数探究基礎

### ■理数探究

- 数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を育成する。
- ・様々な事象や課題に知的好奇心や主体性をもって向き合い、教科・科目の枠にとらわれない多角的、複合的な視点で事象を捉える力などを養う。
- ・観察、実験などの過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用する。
- ・「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修をもって「総合的な探究の時間」の一部又は全部に替えることが可能。

<様々な事象>

・自然事象や社会的事象、先端科学や学際的領域、自然環境、科学技術、数学的事象



## ◀ 家庭 ▶

- 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して解決する力を育成。
- 相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成。
  - ・学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れるよう努める。
  - ・和食、和服及び和室などを取り上げ、日本の伝統的な衣食住に関わる生活文化やその継承・創造を扱う。
  - ・キャッシュレス社会が家計に与える利便性と問題点を扱う。

### ■家庭基礎[選択必修科目]

<内容>

(A) 人の一生と家族・家庭及び福祉、(B) 衣食住の生活の自立と設計、(C) 持続可能な消費生活・環境、(D) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

### ■家庭総合[選択必修科目]

<内容>

(A) 人の一生と家族・家庭及び福祉、(B) 衣食住の生活の科学と文化、(C) 持続可能な消費生活・環境、(D) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

## ◀ 総合的な探究の時間 ▶

### ■総合的な探究の時間 (必修科目)

- 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育む。
  - ・各学校が目標を設定し、その目標を踏まえた内容を定める。
  - ・探究の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫する。

\* \* \* \* \*

上記のように各教科・科目でのICTの積極的な活用や地域社会との連携教育など新たな要素も加わることになる。さらに、各教科・科目間の内容を関連付けながら総合的に捉えて理解させるなど、教科・科目構成の見直しは大きなものとなっている。また、こうした教育結果をどのように評価するかも課題である。高校卒業後の学習や社会生活に必要な力の育成につなげるため、今まで以上に教員の教育方法の変革が求められる改革となる。

(2018.05 常盤)